

JRA競走馬総合研究所スタッフが語る

# サラブレッド<sup>①</sup> の おはなし

今泉信之

(JRA競走馬総合研究所)=文・写真  
text and photograph by Nobuyuki Imaizumi

競馬はクラシック戦線第一弾も終わり、いよいよ春のビッグイベントG16連戦が、新緑のじゅうたんの舞台上で繰り広げられます。今月号はサラブレッドのはなしではなく、サラブレッドが走る緑豊かなターフのはなしです。

競馬場の芝馬場で使用されている芝がどんな芝かご存知でしょうか？ 実は北海道と本州以南の競馬場では全く違います。札幌、函館競馬場では、欧米の家庭の庭やグラウンドと同じで寒地型洋芝と呼ばれる草種を使用しています。これは寒さに強く冬も緑を維持できる芝です。一方、本州以南の競馬場では、野芝と呼ばれる草種を使用しています。しかし、野芝は冬期に休眠し葉が枯れてしまうので、野芝の上からイタリアンライグラスと呼ばれる一年生牧草の種をまき、冬でも緑豊かなターフを維持するための工夫が行われています(新潟競馬場は除く)。この方法はウィンターオーバーシードと呼ばれており、最近ではさまざまな競技場などで行われています。しかし、冬期の草種としてイタリアンライグラスを用いるのは、私の知る限り競馬場だけだと思えます。

野芝は日本芝とも呼ばれるもので、日本古来の自生植物とされています。学名は*Lolium japonicum*です。ホームセンターや

## 北海道と本州以南では全く違う、競馬場の「芝」の種類



一口に「芝」と言っても、競馬場の地域、気候にマッチするものでないといけないのです

家庭の庭でよく見かける芝は高麗芝<sup>こうらいし</sup>と呼ばれる、葉が細く、見た目が美しいのが特徴ですが、馬が疾走する馬場では丈夫さが第一で(本当は馬が怪我をしないのが第一)、馬に蹴られて穴が開いてもすぐに生長する、生命力の強さから、野芝が選ばれています。

野芝の品種改良の歴史は浅く、1995年に日本第一号の品種が登録されました。競走馬総合研究所では1985年前後に日本全国から野芝を収集し、芝馬場に合った野芝の選抜を行ってきました。その結果、一昨年の2月に品種登録が受理され、「エクイターフ」という名で世に出すことができました。エクイターフはequineという馬を意味する言葉からついたもので、馬のターフ、すなわち馬の芝生という意味です。エクイターフの特徴は横への生長(匍匐<sup>はうぷく</sup>茎の生長)はもちろんだ、縦への生長(葉の伸び)も良く、密生した綺麗な芝生を形成します。この特徴が馬場に使うために重要です。

現在、エクイターフは、生産地での試験栽培を経て増産を行っています。非常に評判もよく、快く生産していただいています。競馬場を使用するには10万㎡単位での生産が必要です。まだまだ、競馬場の需要に生産が追いつかない状態ですが、今後は一般的にも使用していただけるように広く普及させていきたいと思えます。